

報道関係者各位**2025 年 8 月 20 日****一般社団法人 秋田デジタル利活用推進協会****第6回秋田県内における IT/DX の導入実態に関する調査****―秋田の企業 DX は実行段階へ 人材育成と外部伴走が鍵****リリース本文**

一般社団法人 秋田デジタル利活用推進協会（本部：秋田市、会長：齋藤和美）は、2025 年 8 月に秋田県内の企業における IT/DX の導入実態に関する調査結果を発表した。この調査は、秋田県内に本社を置く民間企業を対象に、Web と郵送アンケートを通じて行い、196 件の有効回答を得た。今回の調査は 6 回目となる。

調査結果のダイジェスト**2025 年 秋田県内企業における IT/DX 導入実態調査 概要**

この調査は、秋田県内の企業における DX（デジタルトランスフォーメーション）と IT 活用の現状を把握することを目的として実施されました。2025 年の結果は、DX と生成 AI に対する企業の関心と取り組みが大きく進展している一方、依然として人材、コスト、セキュリティに関する課題が残っていることを示しています。社内の人材の育成、採用、同時に外部の伴走する支援企業の存在が重要視されていることが分かりました。また生成 AI やクラウド利用が拡大する今、セキュリティ対策は、ゼロトラスト※のような考え方が注目されています。

IT の活用実態と IT 人材、景況感

- **IT 製品・サービスの活用状況：業務デジタル化を支える実践ツール活用状況** 秋田県内の企業で最も利用が進んでいるのは、オンライン・チャットなどのコミュニケーションツールで、その活用率は 71.1%に達しています。次いで、グループウェアや基幹業務サービスが 45.9%、業務系クラウドサービス（会計・販売・人事など）も 45.9%の企業で利用されており、業務のデジタル化が着実に進んでいることがうかがえます。
- **今後のビジネスにおける重要課題：企業が注視する未来の成長課題** 今後のビジネスにおいて企業が特に重要だと考えている課題は、「業務のデジタル化」（68.9%）、「セキュリティ対策」（62.2%）、「AI の活用」（45.4%）です。この結果は、多くの企業が業務のデジタル

化を引き続き重要視している一方で、それに伴うセキュリティリスクへの意識が非常に高いことを示しています。また、AI活用への関心も半数近くに達しており、次世代技術への期待が見受けられます。

- **テレワーク関連の重要度：地域性に影響されるテレワーク需要** 一方で、テレワーク関連の重要度は他の項目と比較して低い傾向にあります。これは、業務内容や企業文化、地域性などが影響している可能性があります。
- **IT人材の確保状況と今後の見通し：慢性的な人材不足と先行きの不透明感** 秋田県内の企業におけるIT人材の確保状況については、59.8%の企業が「不足している」と回答しました。また、「わからない」という回答も24.7%に上り、多くの企業がIT人材の確保に課題を抱えている現状が明らかになりました。今後のIT人材の必要性については、「分からない」と回答した企業が51.0%（2024年43.7%）と半数以上を占めており、将来的な人材戦略が定まっていない企業が多いことがうかがえます。
- **今年度の業績と3年後の見通し：慎重な現状維持と一部に見える成長期待** 今年度の業績については、「影響なかった（変わらない）」と回答した企業が39.2%で最も多く、現状を維持している企業が多数でした。また、「少し下がった」が26.3%、「少し上がった」が25.8%となっており、企業の業績が二極化している様子が見て取れます。3年後の業績見通しについては、「変わらない」が40.2%と最も多く、現状維持を予測する企業が多数派でした。次いで、「やや好転」（25.3%）、「やや悪い」（22.2%）と続いており、全体としては慎重な見方が多いものの、一定数の企業が明るい見通しを持っていることがわかります。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の動向

- **DXの認知度と取り組み状況：認知から実行へ** DXの認知度は前年を上回り、調査企業の91.3%が「知っている」と回答し、過去最高を記録しました。内訳は、「よく知っている」が35.7%、「関心がある」が38.8%、「知っている」が16.8%となっています。また、DXへの取り組み状況を見ると、全体で約6割（59.8%）の企業が何らかの形でDXに取り組んでおり、過半数に達しました。内訳は、「全社的に取り組んでいる」が17.9%、「一部の事業や部署で取り組んでいる」が41.9%となっています。
- **DX推進体制と取り組みの効果：経営主導で加速** DXの推進体制については、「経営層を中心とした推進」が38.1%と大幅に増加し、経営トップがDXを主導する動きが強まっています。次いで、「幹部層を中心とした推進」が29.5%でした。DXの取り組みによる効果として最も多く挙げられたのは「業務効率化」（88.8%）で、次いで「コスト削減」（36.7%）、「働き方の柔軟性向上」（35.7%）が続きました。
- **DXで関心のある技術・サービス：AI・クラウドに注目** 企業がDXで特に興味を持っている技術分野として、「データの利活用」（46.4%）と「クラウド環境への移行」（45.9%）が上位を占めました。また、「AI活用」も36.2%の企業が関心を示しています。具体的なサービス

としては、「業務への AI 活用」（26.7%）が最も関心を集め、次いで「業務の自動化」（22.6%）、「文書の電子化」（20.5%）が挙げられました。

- DX に取り組まない理由：最大の壁は人材不足** 一方、DX に取り組んでいない理由として最も多かったのは、「対応する人材が社内にはいない」で 42.0%でした。次いで、「良く分からないので検討していない」（30.7%）、「費用がかかるから」「自社に必要がない」（ともに 26.1%）が主な要因として挙げられています。
- DX の今後の進め方と人材育成：公的支援への期待** 今後の DX の進め方については、「全社的に取り組む」（36.2%）が最も多く、次に「社内人材を DX 対応にする」（28.1%）、「勉強会やセミナーに参加する」（25.0%）が挙げられました。また、DX 人材の育成・教育については、「教育機会があれば参加させたい」という回答が 38.3%と高く、特に「県や自治体からの補助があれば参加したい」という企業は 46.7%に達しており、公的な支援への期待が大きいことがわかります。
- DX 推進のパートナー支援：外部連携の必要性** DX 推進を伴走支援してくれるパートナーの存在については、「いない」と回答した企業が 52.6%と過半数でした。一方で、「条件次第で希望する」が 39.8%、「強く希望する」が 9.7%と、約半数の企業が外部パートナーの支援を必要としていることが明らかになりました。

生成 AI の導入実態

- 生成 AI の認知度と利用状況：急速に浸透する生成 AI の存在感** ChatGPT をはじめとする生成 AI サービスを「よく知っている（すでに使っている、使ったことがある）」と回答した企業の割合は、2023 年の 21.3%から 2025 年には 50.0%へと大幅に増加しました。一方、「知らない」と回答した企業の割合は、2023 年の 15.5%から 2025 年には 7.1%へと大きく減少しており、秋田市場でも生成 AI が企業に浸透していることが明らかになりました。
- 生成 AI の利用意向と活用プロセス：企業導入を主導する経営層の動き** 生成 AI の利用意向も高まりを見せています。「今後会社や仕事で使いたい」と回答した企業は、2023 年の 14.0%から 2025 年には 17.9%に増加しました。また、すでに利用している企業も増加傾向にあり、「個人レベルで使っている」は 2023 年の 11.0%から 2025 年には 29.7%に、「すでに会社で正式に導入し使っている」という回答は 2025 年に 14.4%に達しました。利用分野として最も多かったのは「文章作成」（96.0%）で、次いで「プログラム生成」（48.0%）、「調査」（44.0%）でした。生成 AI の社内活用プロセスについては、「経営陣による判断」（49.7%）が半数近くを占めており、経営トップが導入を主導する姿勢がうかがえます。
- 新たな技術の相談相手：頼られる外部パートナーと社内有識者** 新たな技術の活用に関する相談相手としては、「付き合いのある IT 業者」が最も多く、2024 年の 52.0%から 2025 年には 53.1%に微増しました。次いで「社内の IT 有識者」（2025 年 37.8%）が挙げられ

ています。この結果は、多くの企業が外部の専門家やパートナーからの支援を求めていることを示しています。

- **生成 AI 導入における課題と不安：浸透の裏にある信頼性とセキュリティ懸念** 生成 AI の導入における課題や不安として、最も多く挙げられたのは「本当に信用できる内容かどうか不明」（61.3%）で、2023 年の 54.7%から 2025 年には 61.3%に増加しました。また、「個人情報漏洩する可能性がある」という不安も、2024 年の 40.0%から 2025 年には 50.3%と大幅に増加しており、情報セキュリティへの懸念が強まっていることが明らかになりました。

この調査を設計・分析した一般社団法人秋田デジタル利活用推進協会事務局長の伊嶋氏は以下のよう
に考察コメントを述べています。『この調査結果から、秋田県内の企業における IT/DX への意識と取
組みは、過去数年で大きく進展していることが明らかになりました。特に、以下の 3 点が重要なポイント
として挙げられます。

1.「知る」から「実行する」段階へ：DX と生成 AI の認知度が飛躍的に向上し、多くの企業が具体的な
導入・活用へとシフトしているのが分かります。DX 推進体制も経営層が主導する形に変化し、業務効率
化などの成果を実感している企業が増加しています。

2.根深い「人材・DX 知識」の課題：DX の進展にもかかわらず、「対応する人材がない」という課題は
依然として最大の障壁です。多くの企業が外部の専門家や公的機関からの支援を必要としており、人材
育成や DX 知識提供の機会が引き続き求められています。

3.セキュリティへの高まる懸念：生成 AI の普及に伴い、「情報の信憑性」や「個人情報漏洩」への不安
が顕著になっています。企業が安心して新しい技術を活用するためには、リスクを正しく理解し、情報資
産の保護を前提としたセキュリティ対策（ゼロトラスト※など）が大変重要です。』

※ゼロトラスト＝社内、社外問わず、誰も信頼せず常時検証する新たなセキュリティモデル

本リリースに関するお問い合わせは下記までお願いします。

「調査連絡先」

〒010-0865 秋田県秋田市手形新栄町 7 番 47 号

akita.rpa@gmail.com

一般社団法人 秋田デジタル利活用推進協会

（旧 一般社団法人秋田 RPA 協会）

<https://rpa-akita.jp/>

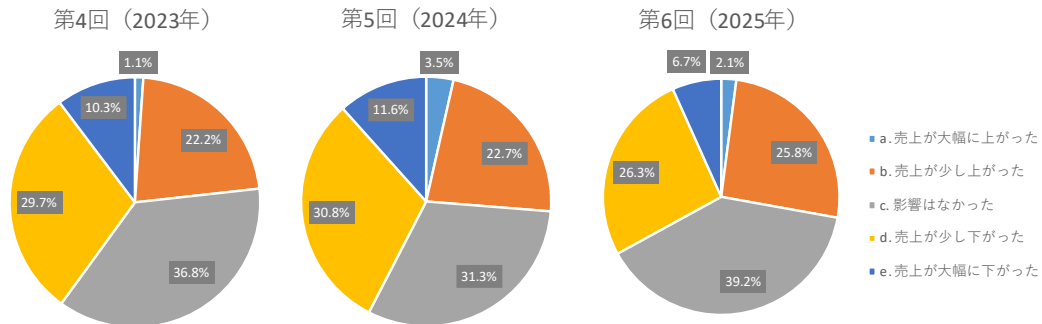
事務局 調査担当

参考図版

「秋田県内の景況感」

Q57. 昨年に比べて売上実績は？

[2023年 N=188 / 2024年 N=204 / 2025年 N= / 196]

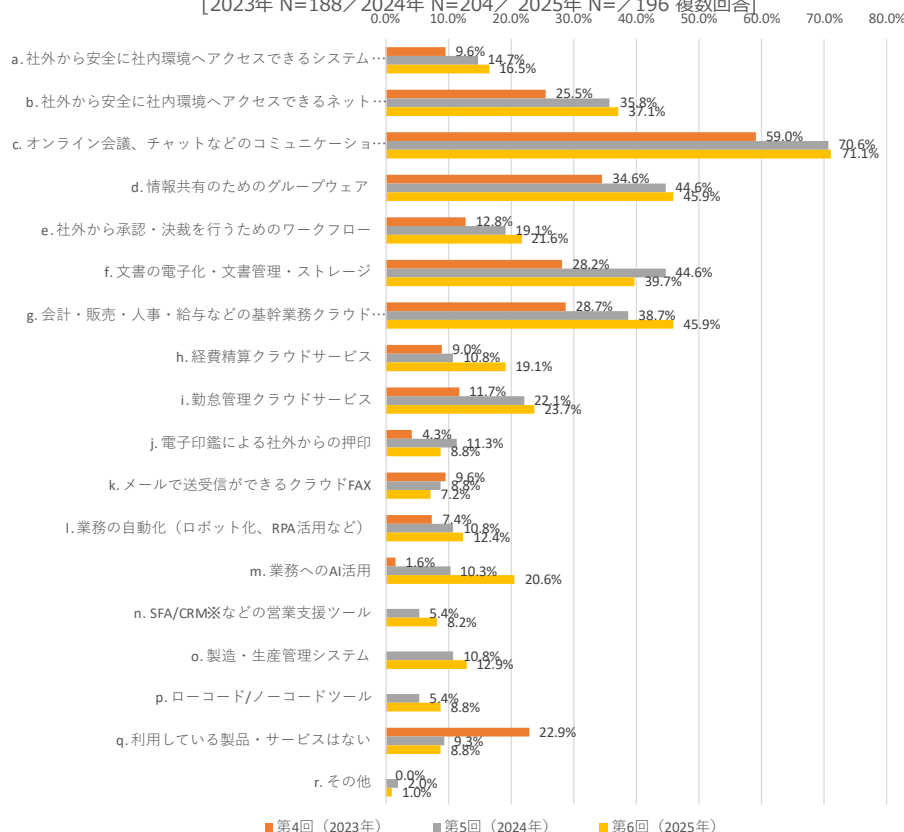


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル活用推進協会）

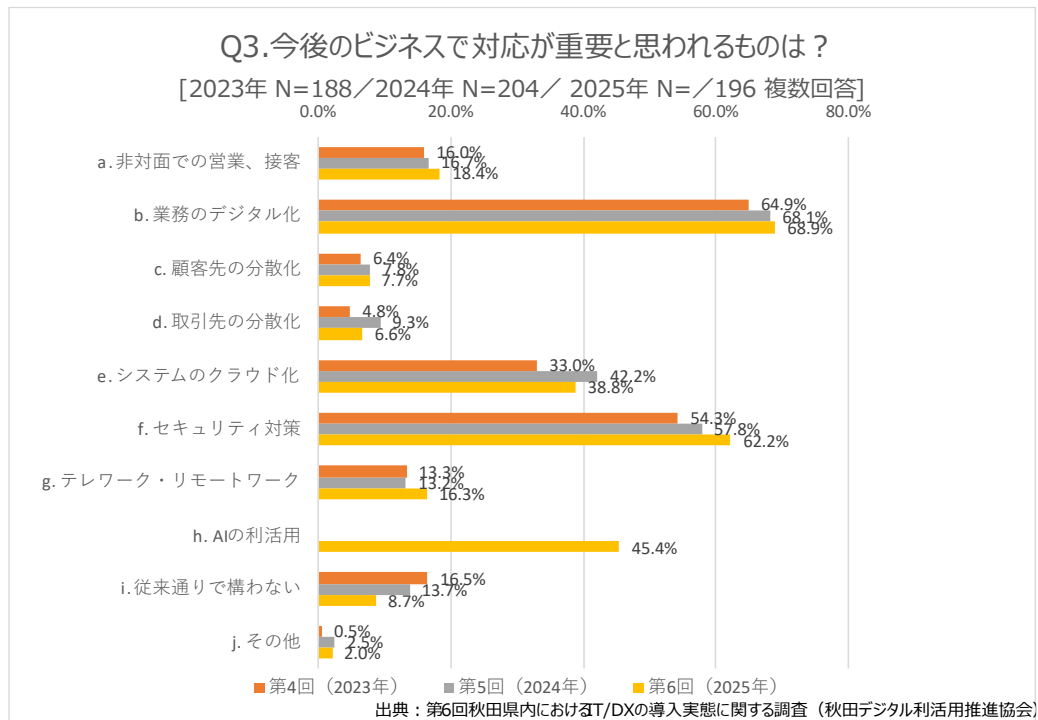
「利活用している IT 製品・サービスについて」

Q1. 企業活動で、IT製品・サービスを利用していますか。

[2023年 N=188 / 2024年 N=204 / 2025年 N= / 196 複数回答]



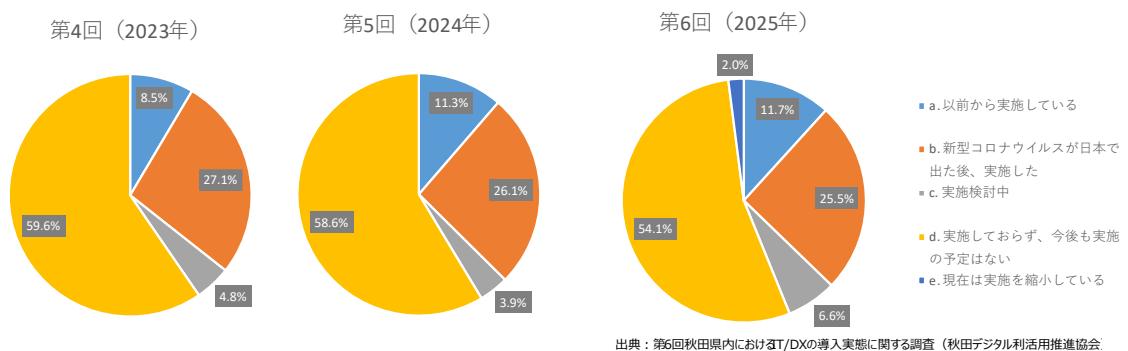
「今後のビジネスでの重要業務、サービス」



「テレワークの実施状況」

Q5. テレワーク・リモートワークについて当てはまるものはどれですか。

[2023年 N=188 / 2024年 N=204 / 2025年 N=196]

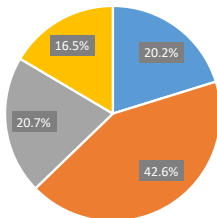


「DXの認知状況」

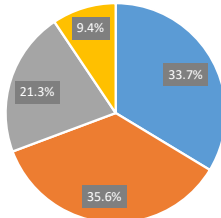
Q13. DXについてご存知ですか？

[2023年 N=188 / 2024年 N=204 / 2025年 N= / 196]

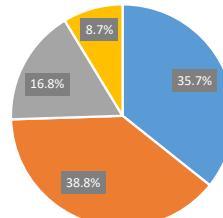
第4回（2023年）



第5回（2024年）



第6回（2025年）



- a. 良く知っている
- b. 聞いたことがある、関心がある
- c. 聞いたことがあるが、関心はない
- d. 知らない、聞いたことがない

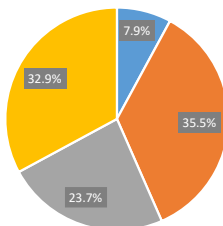
出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル利活用推進協会）

「DXの取り組み状況」

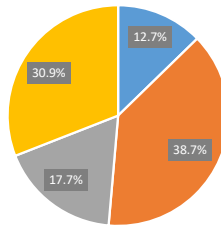
Q14. DXの取り組み状況は？

[2023年 N=157 / 2024年 N=183 / 2025年 N= / 179]

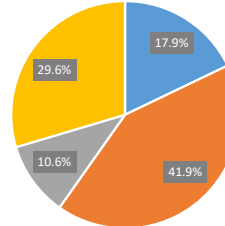
第4回（2023年）



第5回（2024年）



第6回（2025年）



- a. 全社的に取り組んでいる
- b. 一部取り組んでいる
- c. 計画中だが、まだ未定
- d. 取組む予定、計画がない

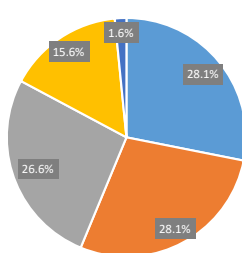
出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル利活用推進協会）

「DXの推進体制」

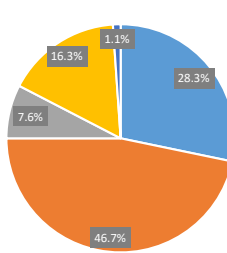
Q15. DXの推進体制は？

[2023年 N=66 / 2024年 N=93 / 2025年 N= / 107]

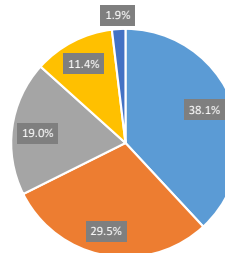
第4回（2023年）



第5回（2024年）



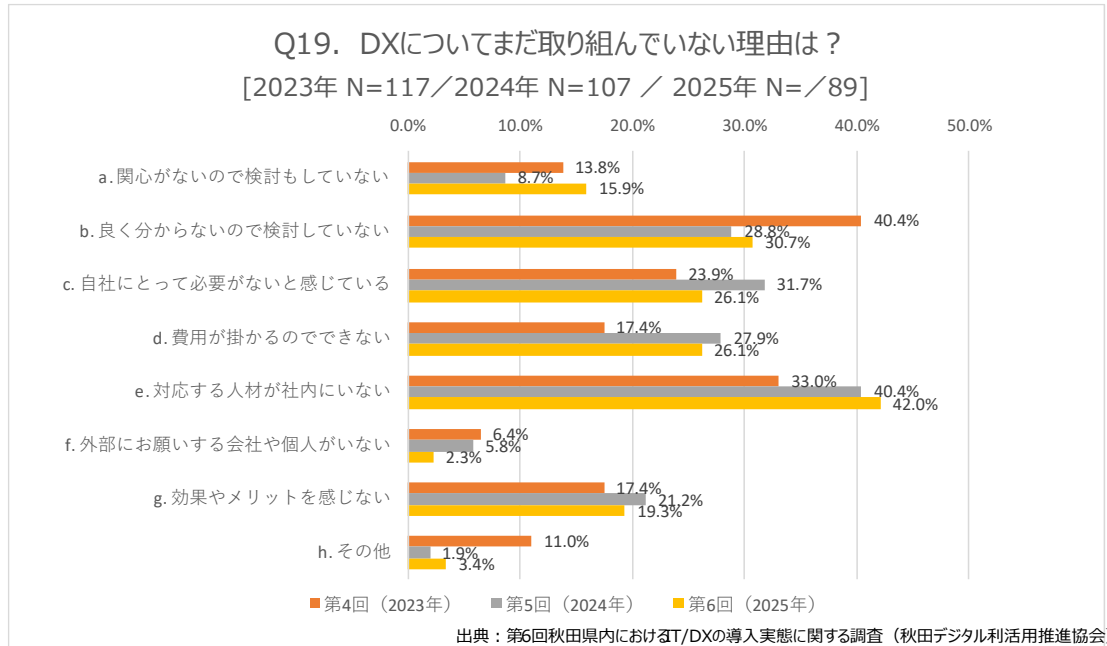
第6回（2025年）



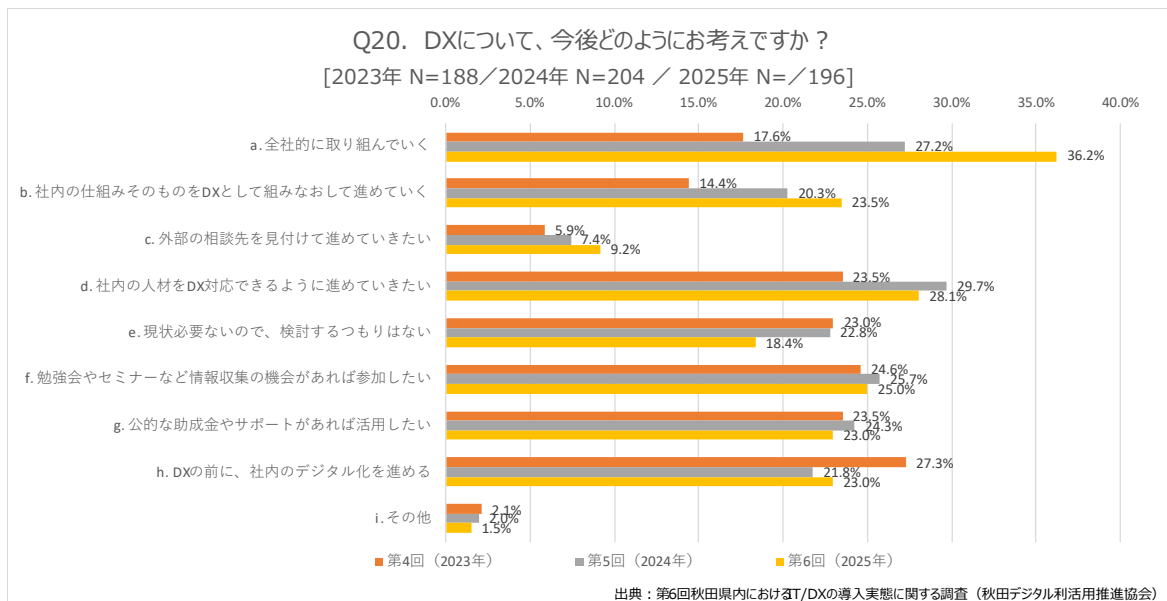
- a. 経営層によるトップダウン形式の推進
- b. 幹部層を中心とした推進
- c. 一般社員を含めたワーキンググループ形式での推進
- d. 現場主導型による部門毎の推進
- e. その他

出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル利活用推進協会）

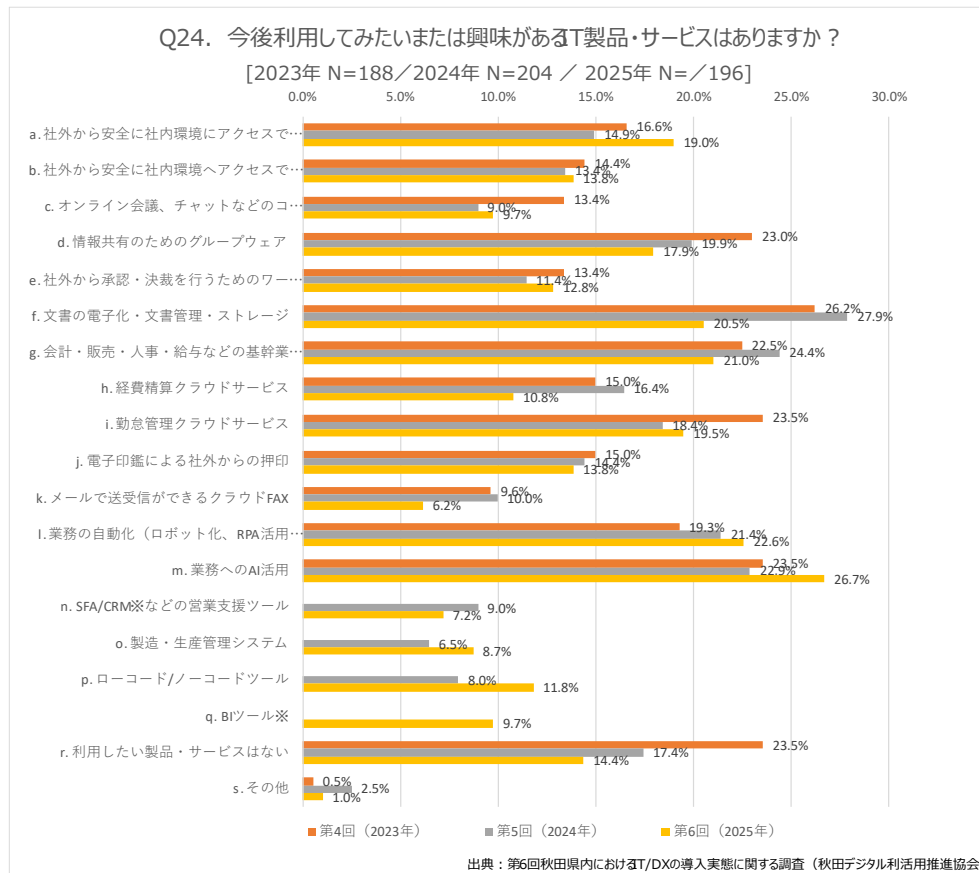
「DXに取り組んでいない理由」



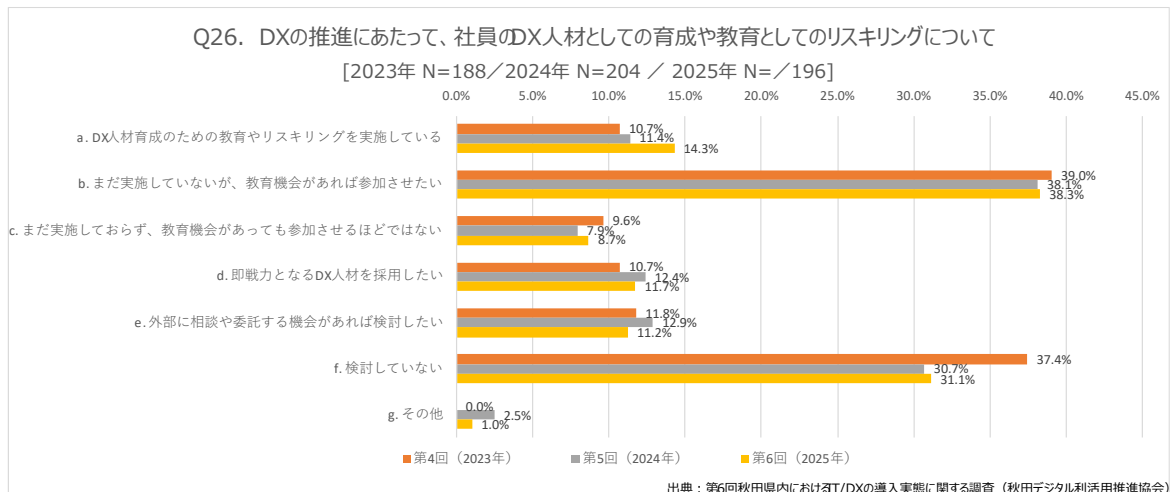
「DXの今後の展望」



「今後活用してみたいIT製品・サービス」



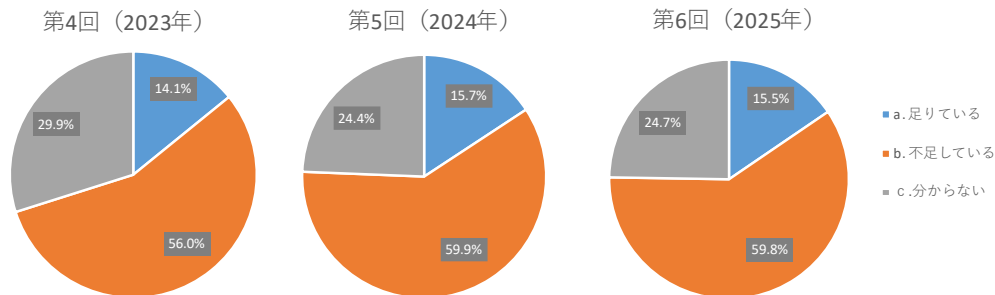
「DX人材の教育・育成について」



「IT 人材の過不足感について」

Q59. 貴社のIT人材（IT担当者など）は？

[2023年 N=188/2024年 N=204 / 2025年 N=196]

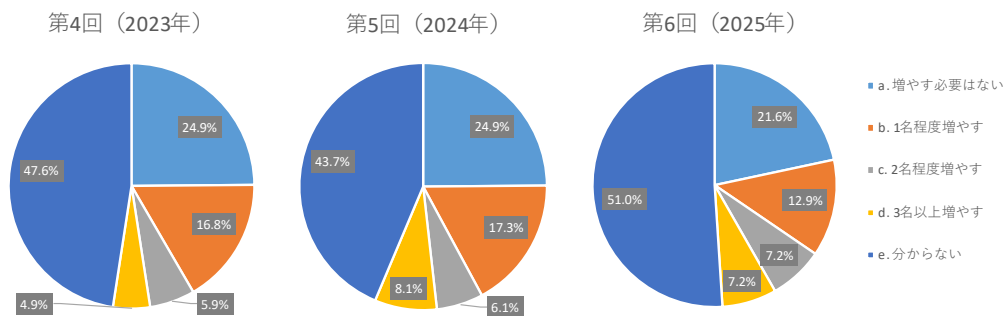


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル活用推進協会）

「今後の IT 人材の増員見通しについて」

Q60. 貴社の今後のIT人材は？

[2023年 N=188/2024年 N=204 / 2025年 N=196]

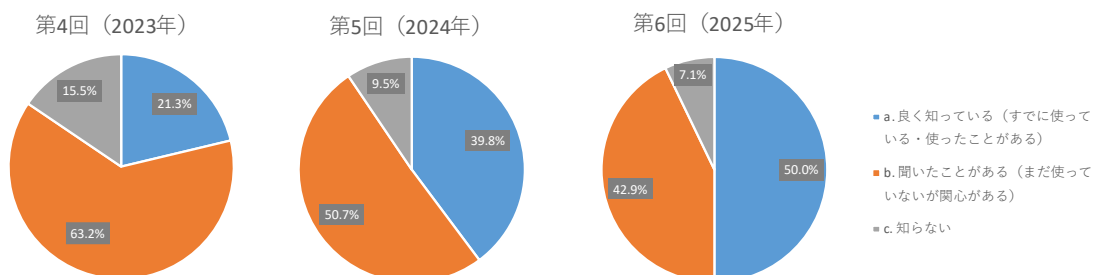


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル活用推進協会）

「生成 AI サービスの認知状況」

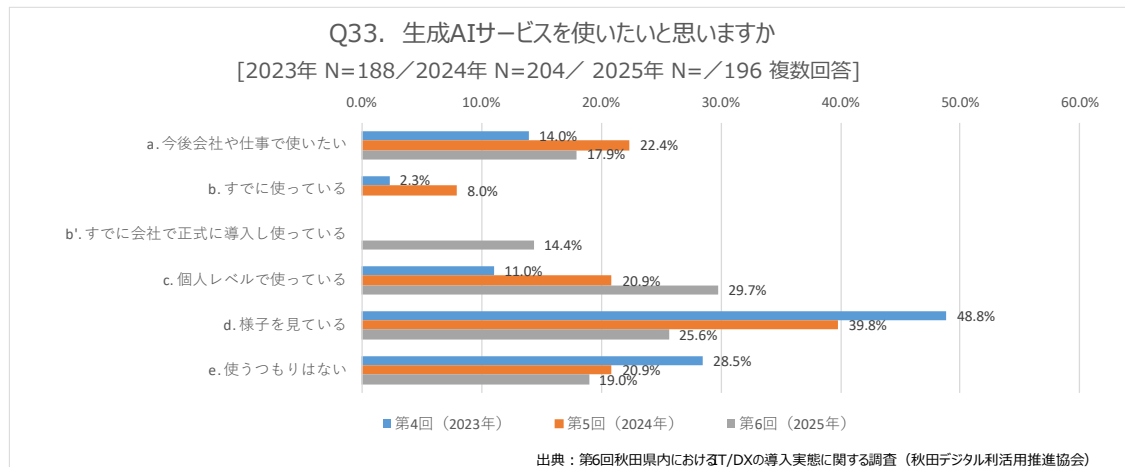
Q32. ChatGPTをはじめとした生成 AI サービスをご存知ですか？

[2023年 N=188/2024年 N=204 / 2025年 N=196]

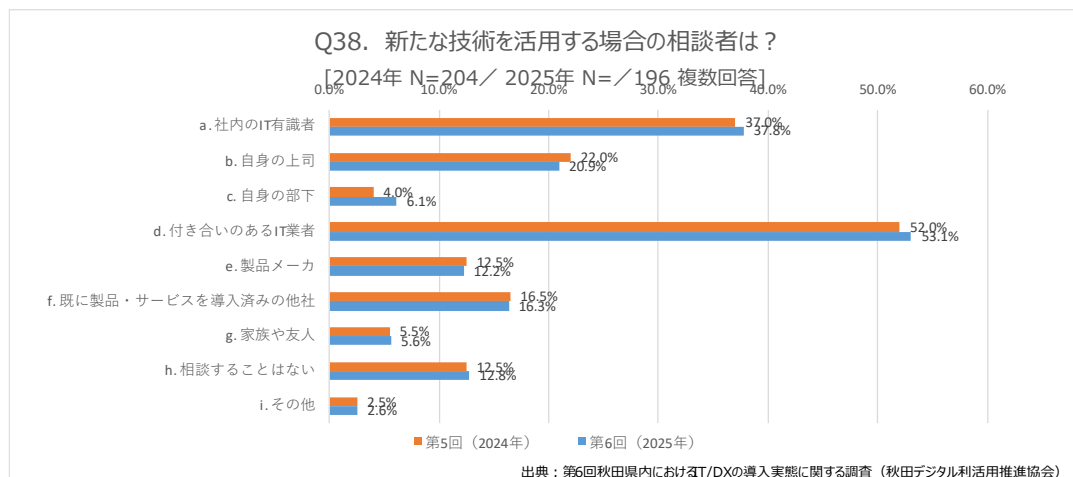


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル活用推進協会）

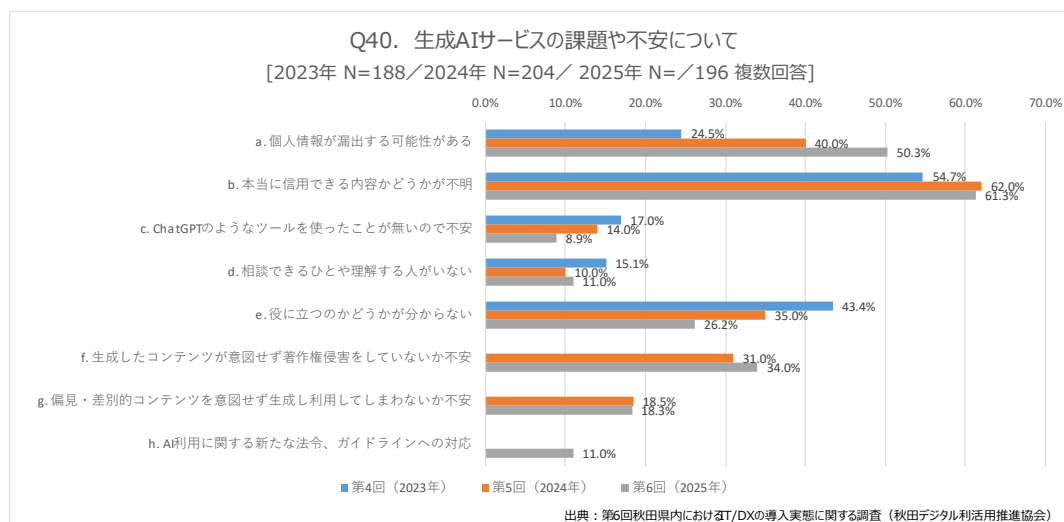
「生成 AI サービスの利用意向」



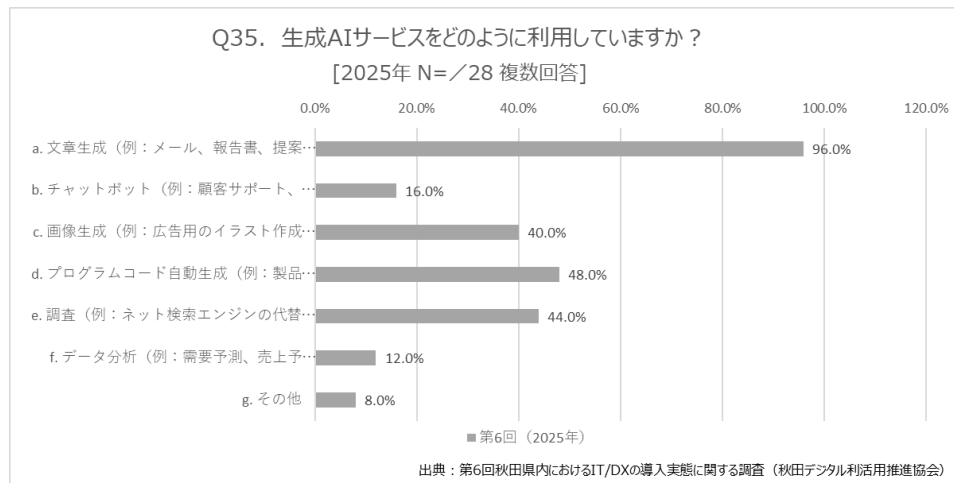
「新たな技術の相談者は？」



「生成 AI サービスの課題と不安」



「生成 AI サービスの利用方法」

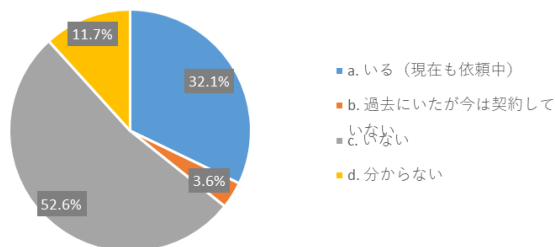


「DX 推進における伴走支援の現状と今後」

Q30. DX推進にあたり、外部パートナーはいますか？

[2025年 N=／196]

第6回 (2025年)

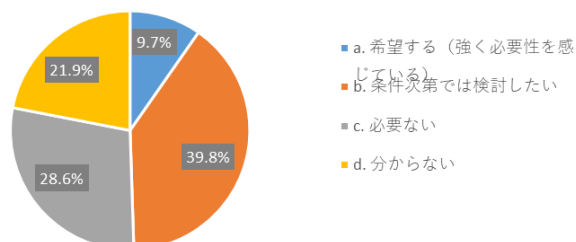


出典: 第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査 (秋田デジタル利活用推進協会)

Q31. 今後、外部パートナーを希望しますか？

[2025年 N=／196]

第6回 (2025年)

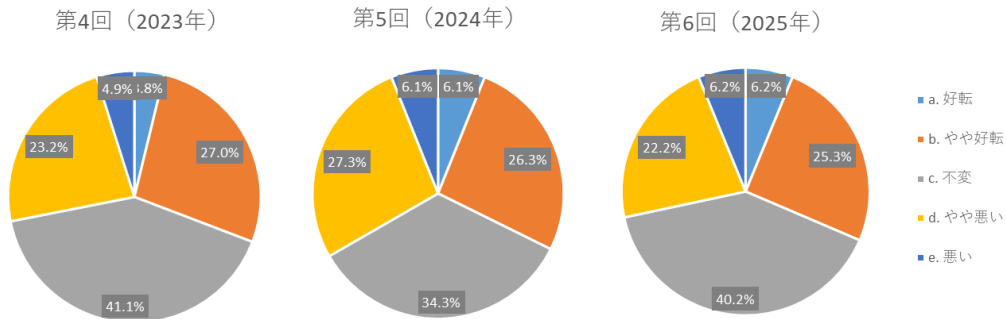


出典: 第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査 (秋田デジタル利活用推進協会)

「3年後の業績見通し」

Q58. 3年後の見通しは？

[2023年 N=188 / 2024年 N=204 / 2025年 N= / 196]

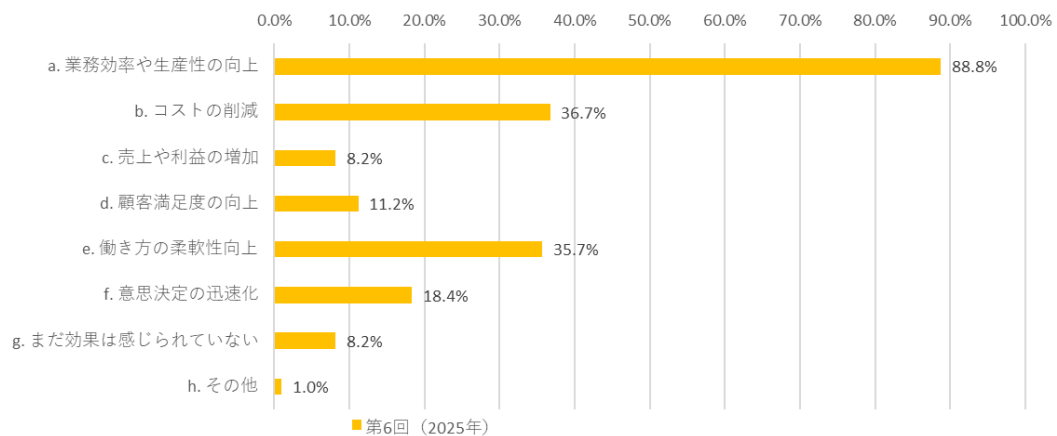


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル利活用推進協会）

「DXの取組で得られた効果」

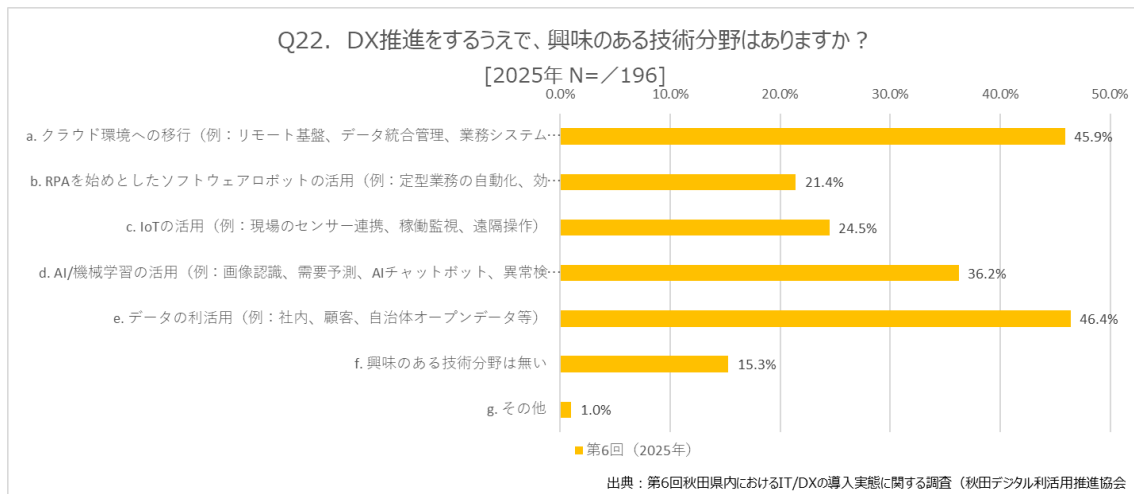
Q17. DXの取組みで得られた効果は？

[2025年 N= / 107]

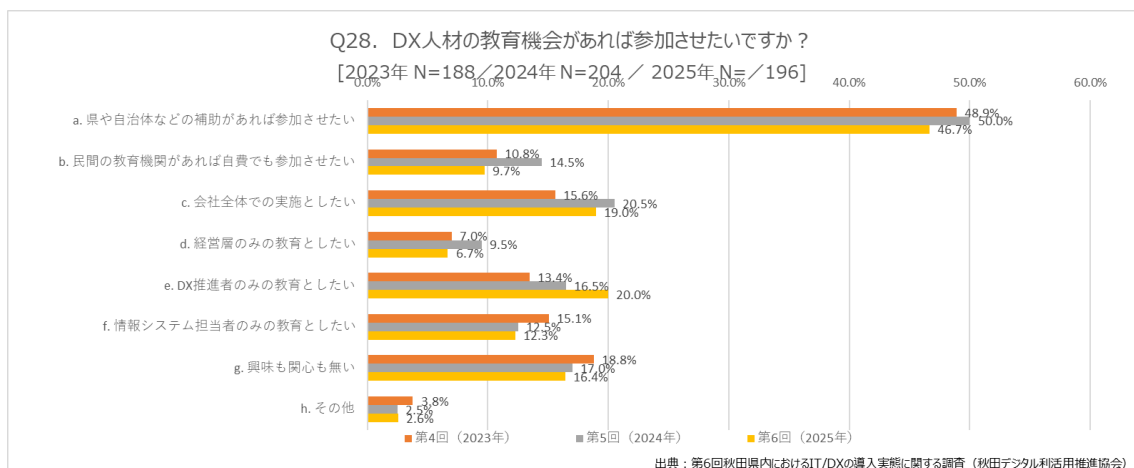


出典：第6回秋田県内におけるIT/DXの導入実態に関する調査（秋田デジタル利活用推進協会）

「DX 推進で興味のある技術分野」



「DX 人材の教育機会への参加」



参考図版 以上。